

暮らしの中の

絵手紙を 楽しむ

半田喜巳子



孔雀ボックス



●カバーデザイン●

斉藤 績

●撮影●

中村 修

●編集●

柳 莊太郎

●編集協力●

国安嘉隆（青游社CA）



孔雀ブックス

え て が み た の
絵手紙を楽しむ

著者 ^{はん だ き み こ} 半田喜巳子

発行者 真尾 栄

発行所 主婦と生活社

〒104 東京都中央区京橋3-5-7

電話 編集 03-3563-5135

販売 03-3563-5121

振替 00100-0-36364

印刷所 図書印刷株式会社

製本所 株式会社若林製本工場

Ⓔ本書の全部または一部を無断で複写複製することは、
著作権法上での例外を除き、禁じられています。
本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター
(03-3401-2382) にご連絡ください。

©Handa Kimiko, 1997 Printed in Japan

ISBN4-391-12019-4 C0076

暮らしの中の

絵手紙を楽しむ



江苏工业学院图书馆
藏书章

半田喜巳子



孔雀ブックス

目次

絵手紙のすすめ 小池邦夫

絵手紙の不思議な力

暮らしの中で楽しむ

何でもいい描いてみよう

こんな楽しみ方もある

春によせて

夏によせて

秋によせて

冬によせて

友に送る

身近なものを描く

美味しいものを前にして

旅先から送る

鉛筆で描く

4

7

10

13

15

18

26

32

34

38

42

44

48

52

絵手紙の自分史	56
九一歳からの絵手紙	64
母への便り	68
小池邦夫さんとお付き合いのある方々のユニークな絵手紙	72
同じものを描いてみる	84
母と娘の絵手紙	88
こんな描き方もある	90
封筒に描く	94
文字を活かす	96
絵手紙の仲間たち	98
年賀状	116
絵手紙 用具と画材	9
絵手紙との出会い	73
絵手紙のかき方	74
線をかく	76
ハガキに描く	78
消しゴム印	82

絵手紙のすすめ

小池 邦夫

原稿を書くのは苦手である。しかし、絵手紙をかくのは苦もなく、無防備のままかけてしまう。腹案もなしに思いついたままを書いてしまう。

この原稿を書く前に、絵手紙を四通かいた。それをそのままの文面で写してみよう。

「松田正平さんの墨の仕事が好きだ。水仙の絵と書の短冊を買った。香りが届く。人の香りが墨の中に秘められている。」

「あせるこたない」と言いつつ、一人世の中から離れてかき続けた男、その男の香りをそばにおいている」

これは福島の民画家渡辺俊明さん宛にかいたものである。俊明さんは大変に忙しい方である。日本全国で個展を開いているので絵手紙などかけぬはずであるが、さにあらず。お互いに九年間一日も欠かさずに絵手紙のかけ橋が築き続けられている。

いつまで続けようなんて約束はしていない。ここまで日常の毎日のことともなれば、も

う止められないだろう。一日のうちわずか一五分間ぐらいで仕上げてしまう。下がきもないし、ぶっつけがきである。

お互いに電話をかけたことは一度もない。すべて絵手紙だけでつながっている。年に一度か二度しか会ってはいない。絵手紙で毎日語り合っているので、離れていながら心の会話をしているの満たされている。

かいたものはそのままが残る。文面だけでなく、絵のタッチや色があせることもなく、その日の心の声かがきにつづけられている。字が誤っていることもあるが、そのままにしている。勢いやタッチの方を重視しているからである。

もう一通も写してみよう。

「銀座の空想ガレリアという画廊の肥後さんに会った。そのうち洲之内徹さんの生原稿を特別にプレゼントしてくれそう。私と同郷の先輩だということ。洲之内さんの丁寧な字が好きだということから肥後さんは大切なものを譲ってくれることになった。手がきの字には息づかいまで伝わるだろう」

絵手紙をかく時には、構えることも飾ることもしないですむ。これがたまたま魅力である。しかも一対一で差向かうことができる。離れていながら一対一で心のお話ができるのは何よりの喜びである。しかも、多くの人を感動させようなんて考えると、ウソをかくことになりやすい。ところが、たった一人に向かう時には、素直にそのままが出せる。いくつになっても素直とか素朴な時間は何にも代え難い。



絵手紙が止められないのは、絵や文の巧拙よりも素直な自分に戻ることのできる喜びがあるからである。

この本の著者半田喜巳子さんのお母さんの丸笠カツさんは九一歳になって絵手紙を始めている。絵手紙を始める前には背中が痛いとか頭が痛いとか言うのが常であった。

ところが、どうだろう。絵手紙を始めると、朝からしゃんとしている。一切グチなんか言わなくなった。好きなことがあると、グチなんか言って時間をつぶすのが勿体ないのだろう。いくつになっても好きなことをして、素直な気持ちになると、時間を忘れてしまう。

丸笠さんの絵が明るくなった。大きくなった。よく観察して描いているので、絵が生きている。しかも、描線に童心丸出しのみずみずしさが溢れている。これを見ていると、「九四歳の青春」ということが現実だと分かる。半田さんはお母さんに九〇歳を過ぎて絵を描かせてしまった指導者でもある。

絵を描いたり字を書いたりしていると、元気が出てくることを証明してくれた。急ぐこない。ヘタでいいから自分の見たまま感じたままをかいていると、老いない。寂しくもない。絵手紙は絵や書の苦手な人ほど味が出せる。特に毛筆でかくと、心の中がそのままにじみ出てくるので、受け取った人まで幸せにしてしまう。あなたも始めてみませんか。

(日本絵手紙協会会長)



絵手紙の不思議な力

「あなたはふだん手紙を書いていますか？」手紙を書くのは何となく、おつくだとか形式にとらわれたり、美辞麗句を考えたりするのはいやだと考え、必要なことは電話で済ませていたのではないでしようか。時候の挨拶に始まって、長い手紙を書いても、伝えたいことはたった一行になってしまふことさえあります。それだったらその必要な一行に、絵を添えて送ってあげたらいかがでしょう。字や絵をかくことは下手だからといわれるかもしれませんが。でも考えてください。もしあなたがひとからそんな絵の入った手紙をもらったらどんなに嬉しいかわかりません。

旨くなくていいのです。下手でも、あなたらしさが出ていればいいのです。むしろ上手に書きたい、描きたいと思わず、いつものままでかいて欲しいのです。どうか試してください。あなたの心をありのままに伝えることができます。

ひとは自分の本当の気持ちを正直に伝えているでしょうか。他人や友人だけでなく、家族や身近なひとにでも、本当の気持ちを伝えることはなかなかむずかしいものです。お互いのなかで多少の行き違いがあったとしても、気持ちが通じていれば解決する方法が必ずあると思います。ひとは自分をよく見せたいとたれもが思っています。そのために自分を飾り、心を閉ざしています。自分の殻から抜け出て、素直な気持ちになって相手に伝える

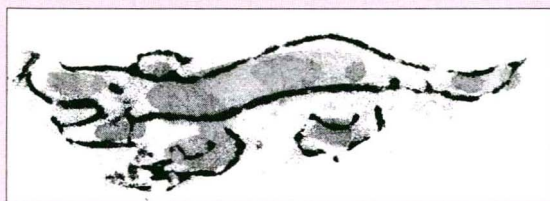
ことなのです。そうすると、とても楽になって、気持ち晴々します。

よく、手紙を書く、絵を添えるというのは、どのように字を書き、絵を描いたらいいのでしょうかと聞かれます。でもそれは決まった方法や技法はありません。一〇人の方がいらしたら、一〇人の方法と技法があるのです。でも私はこんなやり方でかいています、ほかの方はこんな方法でかいています、ということをお教えることはできません。

最初はどうしても、絵が小さく、字ものびのびと書くことができません。でもそれは絵心や字の書き方の問題ではありません。あなたの気持ち、まだ充分に開いていないのです。心の扉がだんだん開いていけば、きっと絵も字も躍動していくでしょう。

私自身、専門的に絵や字をかくことを習ったわけではありません。小池邦夫・恭子両先生に出会い、絵手紙の楽しさを知っただけです。それから身内や友人に絵手紙をかき、送り続けただけなのです。あとで少し、詳しく紹介しますが郷里に残した母が倒れ、惚けが始まってしまいました。でも親子で絵手紙を始めてから気持ちが通じ合い、母からも絵手紙を貰うようになりました。その結果、惚けが回復し、生きる氣力が出てきました。亡くなる前に、母とふたりの展覧会までさせていただき、こんな幸せなことはありませんでした。絵手紙は楽しいだけではありません。不思議な力があります。いまは絵手紙に出会ったことをたいへん感謝しています。どうかみなさんも、家族や友人、さまざまな方に絵手紙を通じて、幸せな気持ちにさせてあげてください。新しい出会いが始まります。

(半田喜巳子)





右より 筆巻き、筆、筆洗、梅皿、硯、顔彩、画仙紙ハガキ、絵具皿、印泥、印、布。

絵手紙 用具と画材

手紙を書き、絵を添えるには筆記用具と絵具があれ
ばよいがもし、新しく揃えるなら、以下のものを揃え
たらよいだろう。

●用紙 ハガキの場合は画仙紙ハガキを使うので画材
店で必ず指定すること。巻紙は和紙を使うが、紙質は
薄手から厚手のものがいろいろあるので自分にあつた
ものを見つけるとよい。

●顔彩 着色には日本画の絵具で顔彩がよい。バラで
買えるが、はじめは一六〜一八色ぐらいのセットにな
っているものがよい。

●青墨 墨は習字用の油煙墨でなく青墨（松煙墨）が
よい。淡青灰色で、絵具に色を活かす。

●硯 書道用のものでよい。青墨は粒子が粗く、傷つ
きやすいので高価なものは避けたほうがよい。

●筆 輪郭を描く線描筆と彩色用の彩色筆の二本を用
意する。初心者には書道用の小筆でもよい。

●その他 筆をしまう筆巻き。筆を洗う筆洗は陶製の
ものがよい。絵具を混ぜる梅皿か絵具皿。姓か名の小
さな印。消しゴムで、自分で彫つてもよい。ほかに印
泥、筆をふく布など。

暮らしの中で楽しむ

絵手紙はむずかしいものではありません。

日常のちよつとしたできごとやよろこびを絵にして、それに言葉を書きます。

目の前にしたものをよく見てください。見たものを大きく描きましょう。絵具で着彩するときは、にがらずに明るい色を使ってください。注意することはこれだけです。

さあ、始めましょう。真つ直ぐに見えたら、真つ直ぐに、丸く見えたら、丸く、ゆがんで見えたら、ゆがんだままに描けばいいのです。そこに添える言葉は素直に思ったことをそのまま、字にしてください。

できましたか。あなたの絵手紙。墨の色と絵具の色が鮮やかで楽しい字が踊っています。これまでとまったく違った手紙になっています。せんか。これであなたの世界が開けます。





（ロム）
 秘めて
 あたは
 止まらな
 今
 サロ
 紅



その日画廊の中
 先生の情熱を
 傾けた絵が
 気品と静けさ
 静けさと華やか
 你と並んで
 一作る話
 ふうな言葉
 時が流す
 会場を
 外へ
 外へ
 春





何でもいい 描いてみよう

何を描いたらいいか迷っていませんか。何でもかまいません。描くものが伝えたい内容と違ってもかまわないのです。

目の前にある、置物、果物でも野菜でも、庭に花が咲いていれば、花を描いてみてください。季節の花が香りを運んでくれます。風景でも人物でも、描いてみたいと思ったものを見たままに描いてください。

学校で図工の授業で描いて以来、絵なんか描いたことがないとおっしゃる方が多いと思います。でも思い出してください。こどものとき、「絵はこうあるものだ」とは考えたことがないと思います。かえって先入観がないのがよいのです。旨くなくてかまいません。あなたらしい絵がいいのです。

画面にたっぷり絵が描けたら、その余白を活かして字を書きます。お習字で習ったお手本の字でなく、あなたの字で書いてください。





絵手紙を楽しく描いていると、いろいろなものに描いてみたいと思うようになります。私はグラスに敷くコースターや食事のときのランチョンマットなどにも絵を描きます。こんなおもてなしにお客様もきっと喜ばれるでしょう。

ほかにも古くなった手提げの竹籠に和紙に描いた絵を張り合わせ、模様替えしました。あなたのアイデアでいろいろなものをこしらえてください。



こんな楽しみ方もある



▲和紙は少し厚手のものがよい。季節にあわせて描く。

- ▶ (上) コースターには庭の花。
(下) 手提げ竹籠に絵を描いた和紙でくるんだもの。